

森永乳業の育児ニュース『エンゼル 110 番レポート 90 号』

「2022 年年間統計」

森永乳業は、時代とともに変化する育児の理解に役立つことを願い、1993 年 4 月から「エンゼル 110 番レポート」を発行しております。この「エンゼル 110 番レポート」は、育児相談窓口「エンゼル 110 番」への相談内容から、育児に関する傾向についてまとめています。

エンゼル 110 番は 1975 年 5 月に開設し、2023 年 5 月で 48 年を迎えます。この 3 年間は、新型コロナウイルス感染症への予防対策として相談体制を縮小する一方で、長年行っている看護学生の実習をオンラインに切り替えるなど対策を実施しました。それでも、相談の電話が鳴らない日はなく、2022 年 8 月 5 日には累積相談件数が 100 万件を超えることができました。9 月 17 日(土)に「100 万件到達オンラインイベント」を zoom にて午前と午後の 2 回開催し、参加された方からは「知りたいことが聞けてよかった」「自分と同じような悩みを持っている方が多いと気が付き、楽になりました」「説明がわかりやすかった」と好評をいただきました。2022 年の年間統計をもとに、育児に関する傾向をレポートします。

【主な統計結果】

- 2022 年相談件数は 8442 件、1 ヶ月平均は 703.5 件。1 通話の平均時間は 17 分 54 秒、年間としては昨年に引き続き再相談が新規相談を上回った。
- 認知経路はインターネットやインスタグラムをはじめとした「検索サイトなど」が 64.6%と年々増加傾向。
- 相談対象の年齢は 1 歳以上が全体の 56.8%と半数を超えた。
- 相談内容は「食生活」が最も多く 29.1%、次いで「相談者自身」が 23.4%。

◇エンゼル 110 番 電話相談運営概要◇

相談対象	妊娠中～小学校就学前まで
相談員数	16 名(管理栄養士、心理相談員など)
ウェブサイト	http://www.angel110.jp/

本件・バックナンバーに関するお問い合わせ先

<報道関係者からのお問い合わせ先>

森永乳業 広報・IR 部 越 TEL 03-3798-0126 メールアドレス pr@morinagamilk.co.jp

<お客さまからのお問い合わせ先>

育児に関する無料電話相談「エンゼル 110 番」フリーダイヤル 0800-5555-110

※受付時間：月～土曜日(日曜、祝日除く)、10～14 時

なお、4/1 より、月～金曜日(土日祝日除く)となります。

エンゼル 110 番ウェブサイト <http://www.angel110.jp/>

エンゼル 110 番レポート VOL.90

今回のテーマ「2022 年 年間統計」

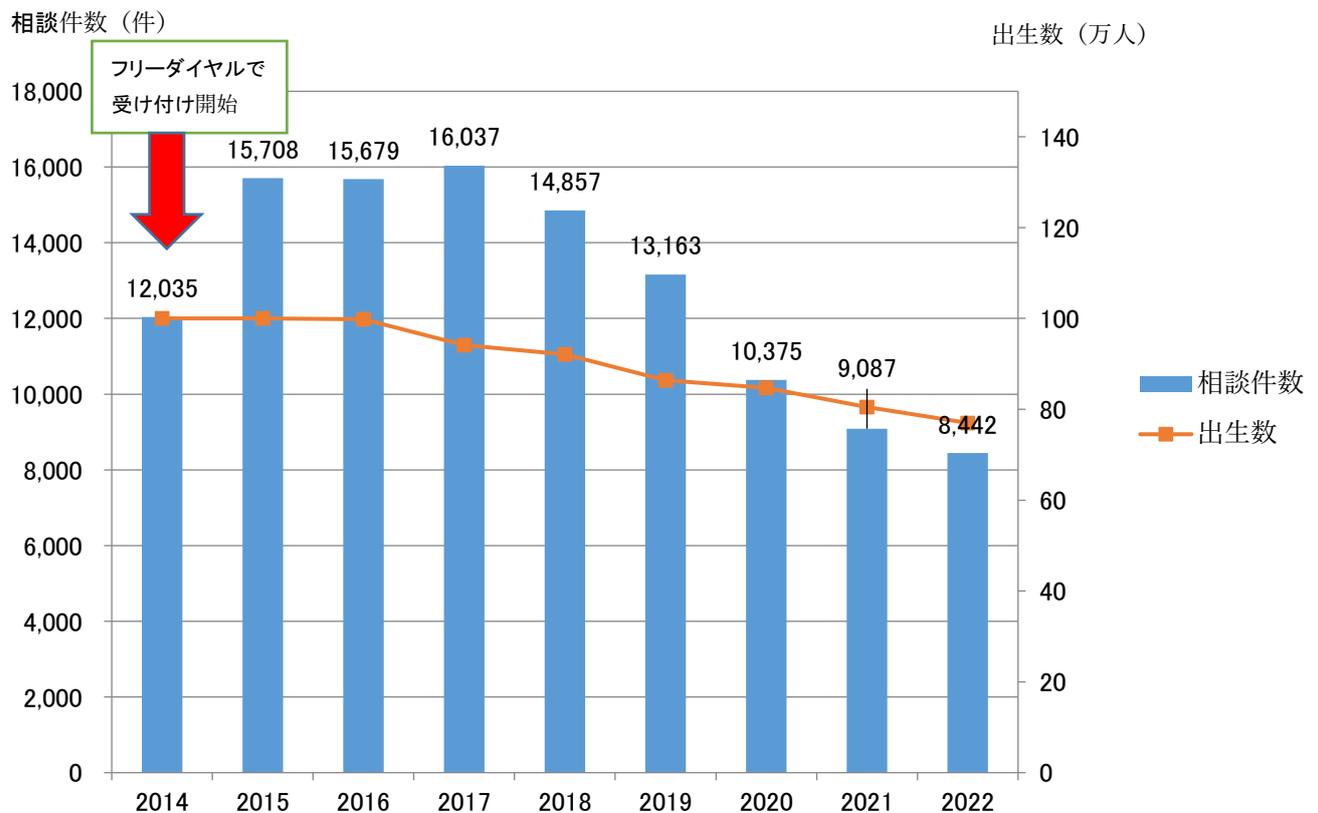
2022 年相談件数は減少傾向。1 件当たりの相談時間は1分ほど長く。再相談が新規相談を上回る

2022 年エンゼル 110 番で受けた相談件数は 8,442 件です。(図 1) 1 カ月平均では 703.5 件(図 2)、1 日当たりでは 29 件でした。

年間の相談数が一番少ないのは 5 月となりました。5 月には、Amazon Alexa に対応した「育児サポートスキル」の新サービスも開始し、これにより電話相談にも影響がでた可能性も考えられます。(図 2)

1 件当たりの平均相談時間は 17 分 54 秒と昨年の 17 分 4 秒から 1 分近く長くなっています。2020 年に初めて再相談件数が新規相談件数を上回りましたが、2022 年もその傾向は続き、再相談件数 5,191 件(61.5%)、新規相談件数 3,251 件(38.5%)となりました。(図 3)

図 1 相談件数と出生数(2014～2022 年)



厚生労働省 2022 年人口動態統計速報見通しより引用

図2 月別相談件数(2022年)

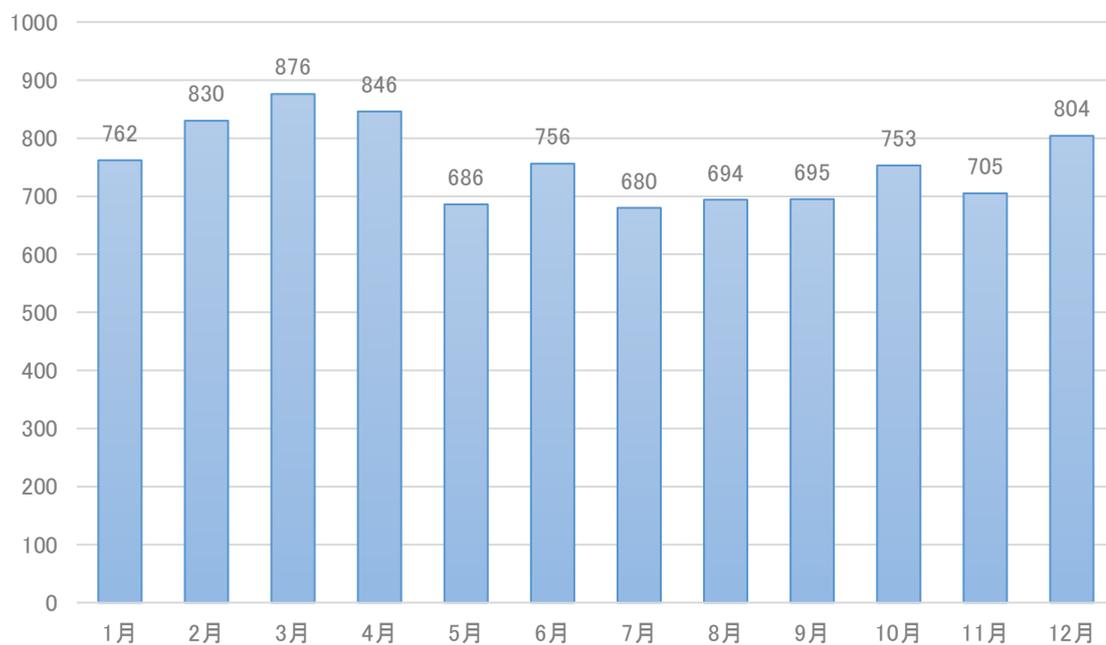
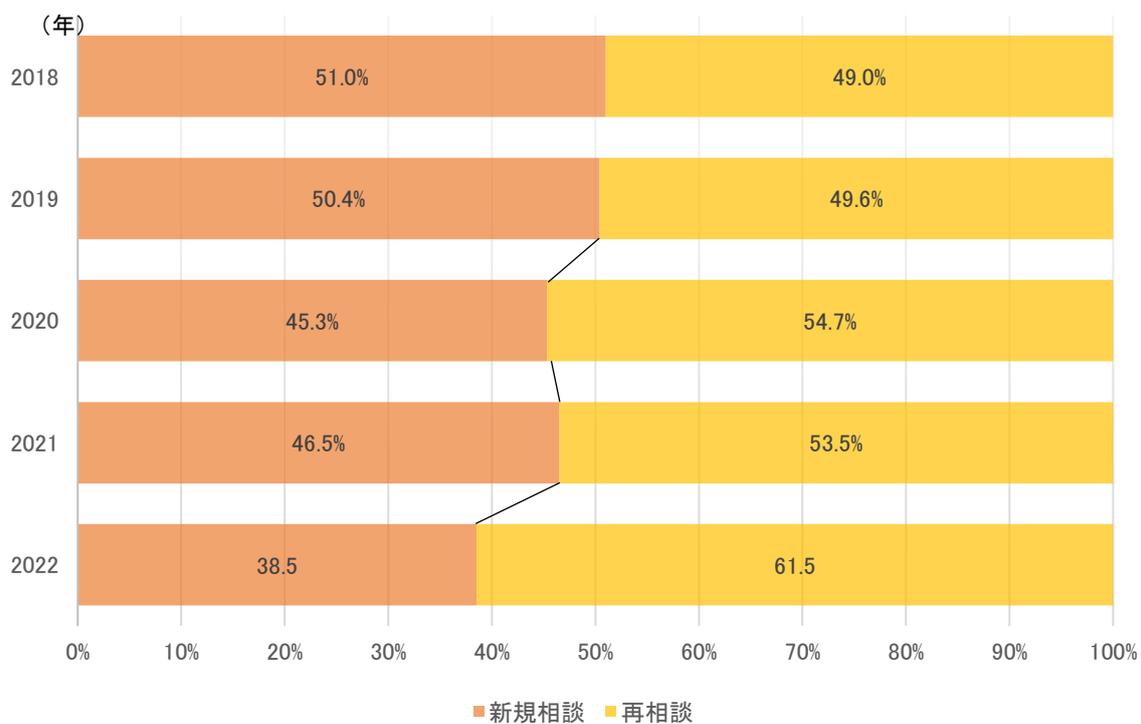


図3 新規相談と再相談の割合(2018~2022年)



インターネットで『無料育児相談』と検索が 64.6%と 6 割を超える

エンゼル 110 番の認知経路としては、「検索サイトなど」が最も多く 64.6%を占めました(図 4)。インターネットでの検索が年々増加し続けています。2021 年から引き続きインターネット検索の中でもインスタグラムやツイッターなどといった SNS でエンゼル 110 番を知り、実際に利用される方が増えています。エンゼル 110 番 web サイトは 4 月にリニューアルし使いやすくなったものの、5 月はウェブサイトビュー数が一時的に低下しました。12 月には徐々に回復しています。(図 5)

図 4 認知経路 (2018~2022 年)

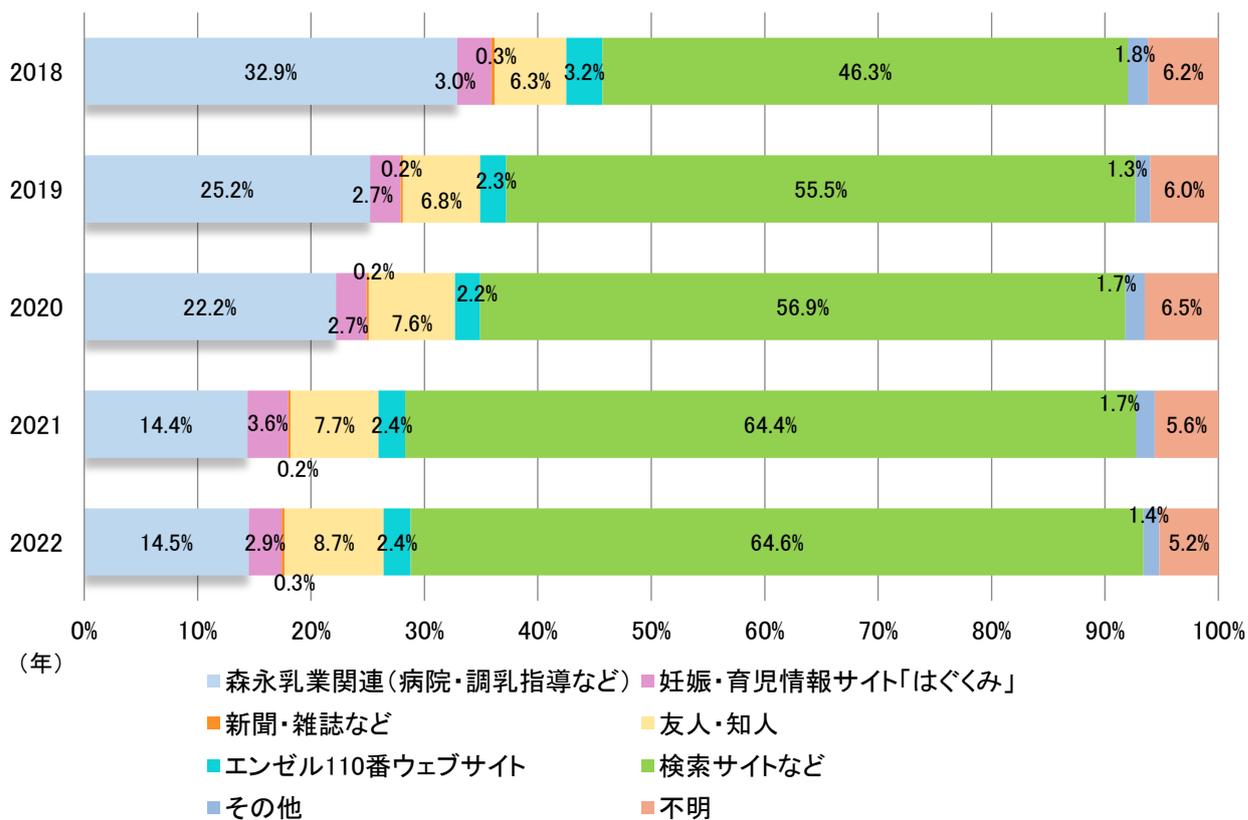


図 5 エンゼル 110 番ウェブサイトビュー数 (2022 年)



ママからの相談が 95.6%を占めるも、パパからの相談もじわじわ増加

相談者は 95.4%がママで、そのうち 30 歳代が 62.3%と 6 割を超えています。(図 6、7)
 またパパからの相談は 138 件と全体の 2.5%を占めています。パパの相談件数の記録を取り始めた 2004 年 (0.6%)から全体を占める割合は 3.3 倍と増えています。(図 8)パパが「育児休暇を取得した・している」というお声も相談の中でたびたびお聞きしました。

図 6 相談者の属性比較(左:2022 年 右:2004 年)

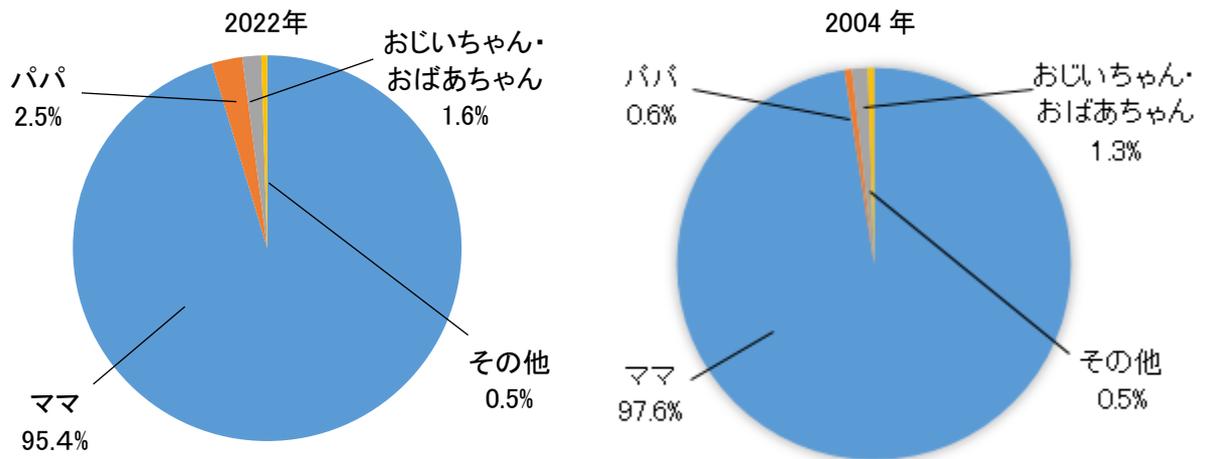


図 7 ママの年齢推移(2018~2022 年)

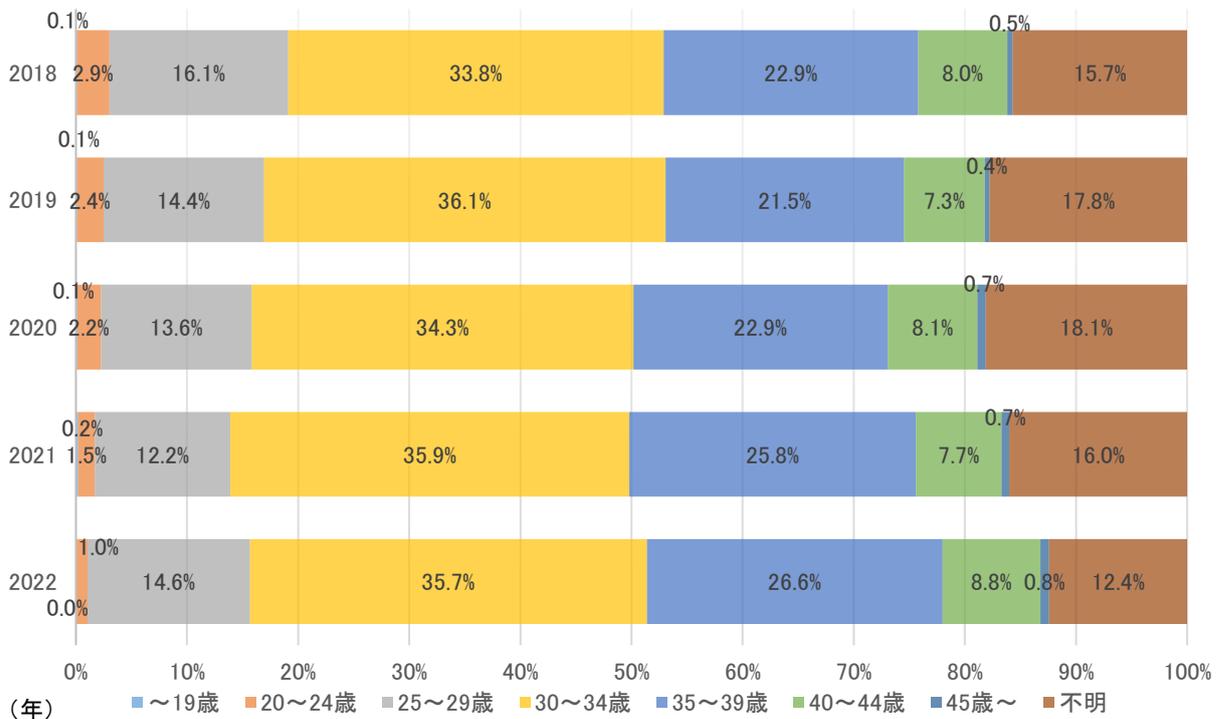
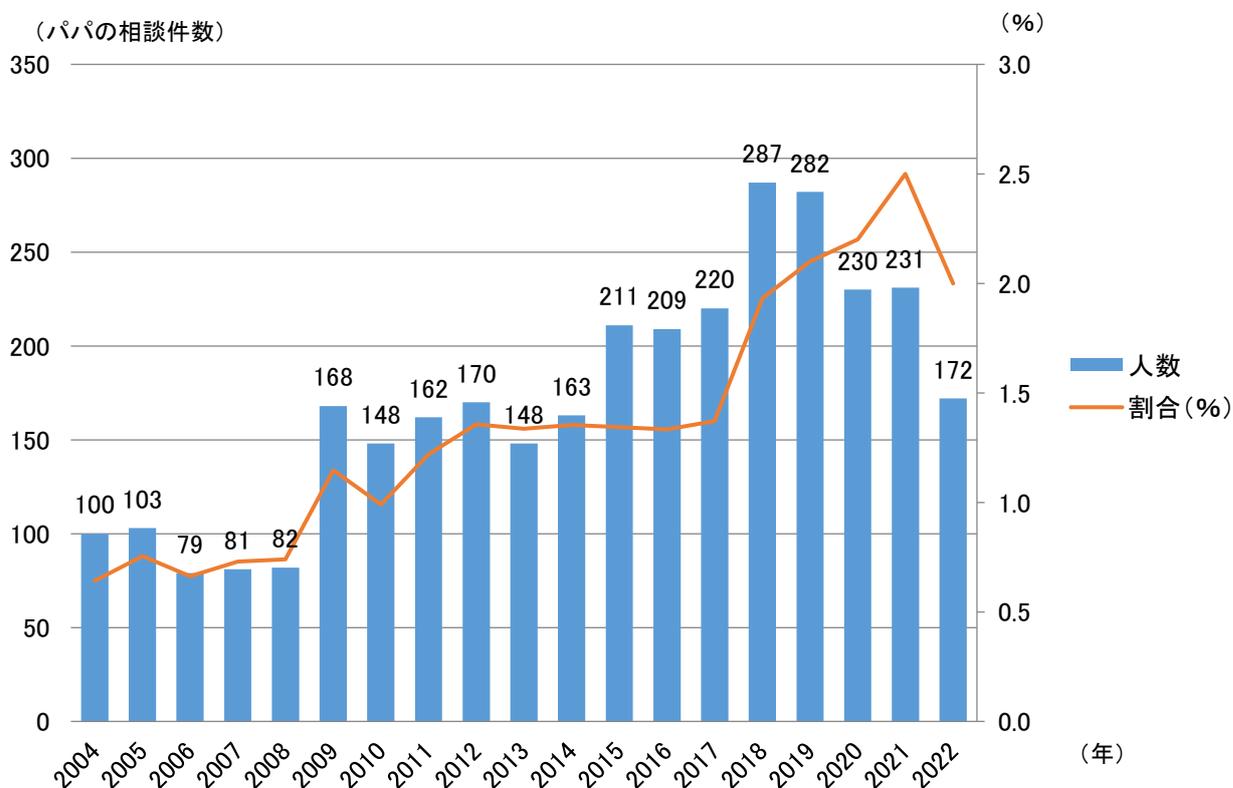


図 8 パパの相談件数と割合 (2004～2022 年)



■ パパからのご相談例

最近の特徴的なものとして、「ママのサポートをどうしたらよいか?」「ママが産後うつではないか」といったご相談があげられます。また、育児について夫婦間の意見の相違をスピーカーフォンで夫婦一緒に尋ねられることもあります。

・妻から育児に無関心と言われた。1歳1カ月の子どもの食事や歯磨き、予防接種などどんなことに気を付けてお世話したらよいか知りたい。

・スピーカーフォンで夫婦で相談しています。新生児で顔を引っかき傷がつくのでミトンをしていたが「手の感覚が鈍る」とネットの記事で見た。ミトンをしていると本当に感覚が鈍るのか?外せば感覚を取り戻せるものなのか?

・妻が育児疲れてパパが育休を取得したが終わって今は有給を使っている。妻は真面目なので気晴らしができず5カ月に入り離乳食が上手いかず寝込んでしまった。

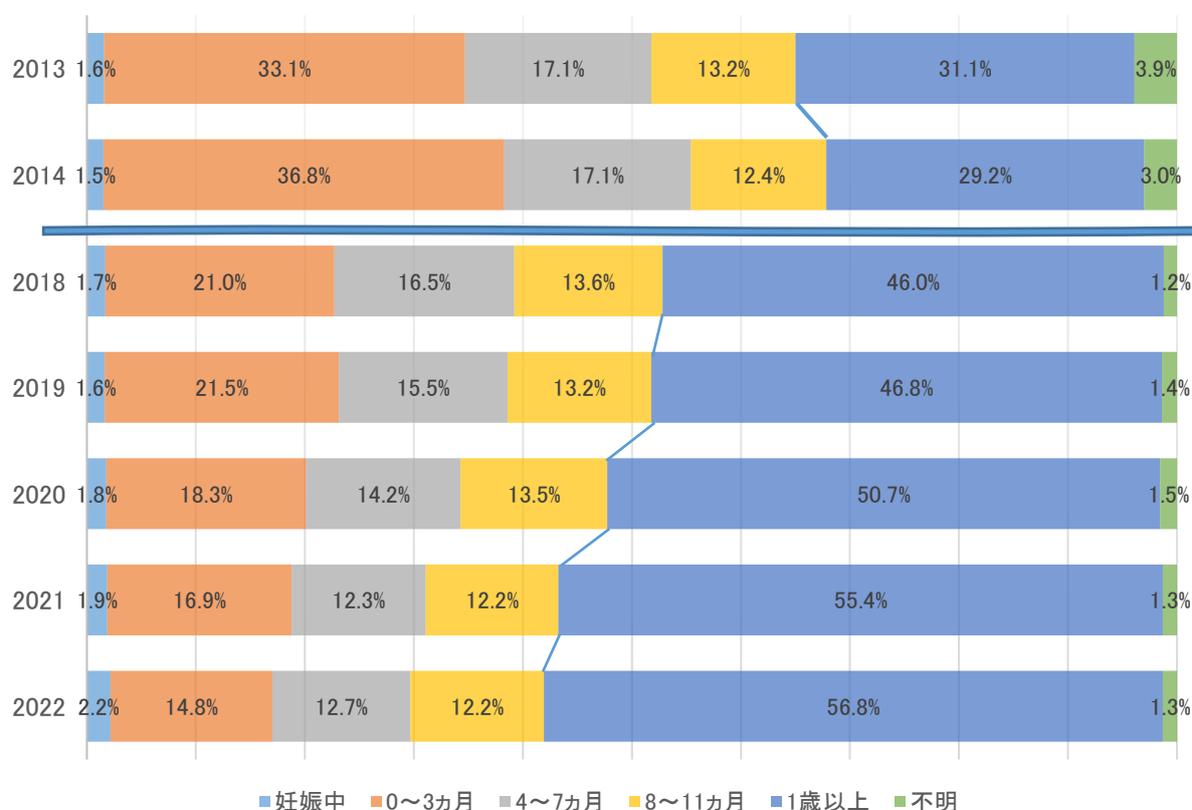
・パパ育休中。3カ月の子どもを昨日からの追い炊きしたお風呂に入れてはいけない?セパレートタイプの服は何カ月から着られる?平熱が37.4~37.5℃、機嫌よく食欲はあるがこんな子はいるものか?

・育休も所得し積極的に関わっているが妻からの要求が高く、一生懸命やってもダメ出しばかりで評価してもらえない。パパの相談窓口がなく困っている。同僚にも相談できない。

1歳以上の相談が半数を超える

相談対象である子どもの月齢・年齢では、1歳以上の相談が56.8%を占めました。次いで月齢0～3ヵ月までの低月齢の相談が14.8%と開設以来最も少なくなりました。開設から2015年までの40年間はこの0～3ヵ月までが常に全体の3分の1を占めトップでしたが、2016年に1歳児以上と逆転して以降減少が続いています。特に、この3年間はコロナ禍で新生児への調乳指導や0歳児への栄養相談などの機会が非常に少なくなったことも影響していると思われます。(図9)

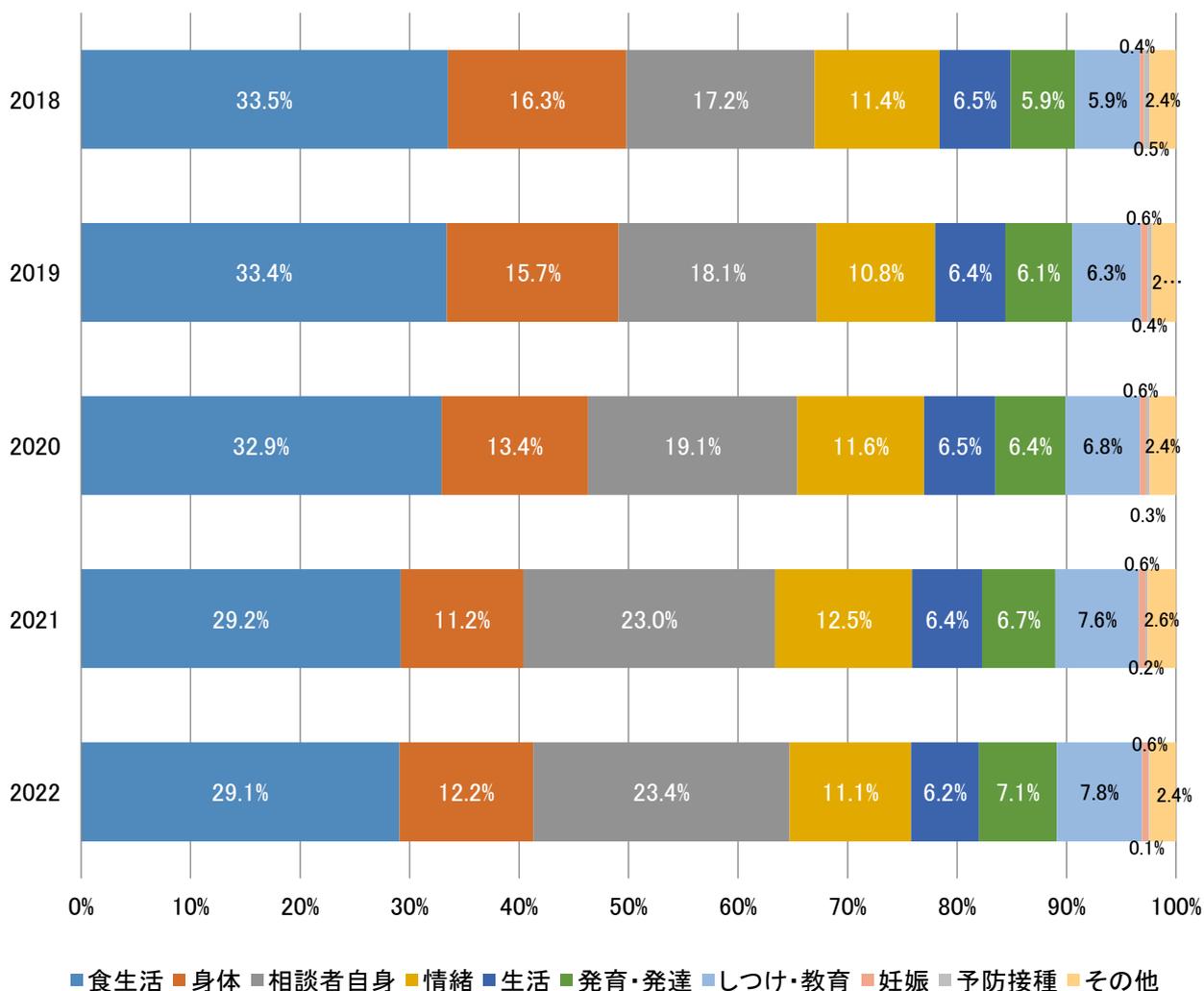
図9 子どもの月齢・年齢の割合の推移(2013～2014・2018～2022年)



相談内容は「食生活」が最も多く29.1%、次いで「相談者自身」が23.4%

相談内容で最も多いのは、授乳や離乳食に関する「食生活」で29.1%でした。次いで多いのが、相談者と子どもの関係や相談者自身のメンタルに関する「相談者自身」で23.4%を占めています。ここ数年「相談者自身」が増加する傾向は続いています。逆に低月齢の赤ちゃんに多い吐乳・溢乳や便、皮膚などの「身体」に関するご相談もインターネットで情報が得られるためか減少しています。中にはweb診療を受けたが診断内容が合っているのか知りたいという相談も何件ありました。「身体」の中の分類別の「家庭看護」が増えているのは発熱したがコロナかどうか目安を知りたい、受診はしたいが小児科でコロナにかからないか心配なので様子を見方が知りたい方が増えたためと思われます(図10)

図10 相談内容の割合の推移(2018~2022年)



■2022 年園児の相談事例

今年の特徴としては、コロナ共存となり運動会や演奏会などの園内行事再開に関するご相談が多く寄せられた。日常生活の変化により、精神的に不安定になった幼稚園や保育園に通うお子さまの様子についてや、対応について悩んでいる保護者の方からいただいたご相談を紹介します。

- ・ 園のしきたりで年長さんは鼓笛隊をする。子どもは三つ太鼓がついている「トリオ」という楽器を演奏することになった。指導が厳しいらしく昨日から「お腹痛い、幼稚園に行きたくない」と言い出して困っている。
- ・ 今朝幼稚園の運動会に楽しく出かけた。だが会場に入ると目をつぶり静かになって運動会の間はずっと先生に抱っこされていた。その様子を見てママはショックを受けてしまった。
- ・ 年中の子どもの癇癪がひどい。園では自分をあまり出せる性格ではないし頑張っている様子。その反動か家ではやりたい放題でママがイライラしてしまう。
- ・ 4月から下の妹も一緒に保育園に通うようになった。妹は楽しくて仕方がない様子だが、姉が行き渋りで仕方なくママ有給をとってお休みした。夜に泣きながら「ママ、ごめんね。私頑張る…」園では率先して先生の手伝いをしたりしている。園で頑張っているから行きたくないのか？
- ・ 園から帰宅後不安定で癇癪をおこす。大泣きすることも。対応に困り、園に相談したら「こういう時期だから」と寛容。家で暴れたときの対応が知りたい。
- ・ 4月から幼稚園に通い始めた。毎日泣いて「嫌だ、嫌だ」と言うが園バスが見えると自分からバスの方にスタスタ歩いて行き、そのまま登園する。夜泣きもするので心配だがこのままでよい？
- ・ 年中の孫のこと。2学期に入り劇の練習で疲れている様子。1学期は運動会がありその時から不安定だったと娘から聞いた。園では自分のことができるよい子だが、自宅では疲れているせいか「ぼー」として帰宅後手も洗わない。言葉で伝えられることも泣いてしまう。その様子を見て娘が心配をしたりイライラしているのでは何と対応したらよいか。
- ・ 年中から幼稚園に入園。去年は保育園に通っていた。幼稚園に代わってから笑顔がみられなくなり、緊張感が漂っている。11月になるのに友だちも1人しかいない。そのせいか登園渋りがひどい。

まとめ

2022 年も引き続き新型コロナウイルス感染症の感染状況は変わらずでしたが、3 月 21 日に行動制限のある蔓延防止重点処置が全国的に解除され、その後発令されていません。行動制限がない分、イベントや行事が復活してきていて、ゴールデンウィークや夏には里帰りをする様子が相談からも聞き取れました。2020 年・2021 年に入園した今の年長さんや年中さんは行事が少なかったり、時短になったりしたものが本格的に戻りつつあり、そのペースについていけずに疲れ、精神的に不安定になり癩癩を起したり行き渋りをする相談も多くありました。第 7 波といわれる感染状況がピークの 7 月 8 月には「家族全員コロナに感染してしまった。赤ちゃんがミルクを飲まないが受診もできず心配」「自分(パパ)は軽症だが陰性の妻の体調が悪い。外部からのサポートを受けることができないので 10 カ月の双子の世話はどんなことに気をつけてしたらよいか」「保育園でクラスターがでて 10 日ほど自宅待機。外出もできず 4 歳の子どもが絵を黒く塗りつぶすようになった。メンタルが心配」などといった声が聞かれました。また、エンゼル 110 番を複数回ご利用され 4 月から入学する方からは「エンゼル 110 番や地域の相談が終了するので不安がありますが、今までありがとうございました」とお礼のお言葉や、数年前に卒業されたお母さまから「寄り添ってもらい育児に自信がついた。これからも全国のお母さんたちを助けてください。応援しています」と励ましのお電話がありました。また「気持ちがいっぱいいっぱいになった時にエンゼル 110 番に電話するとホッとします」「提案してもらったことを試してみたら上手くいきました。ありがとうございます」「話を聞いてもらい私の気持ちが良い方向に向いてきました」「優しく聞いてもらい、うれしかった」「スッキリしました」などエンゼル 110 番を利用した感想を伝えてくださる方も多数いらっしゃいました。

新型コロナウイルス感染症の発生から 3 年が経過し、私たちの生活環境は大きく変化しました。2022 年は少しずつコロナ前の生活に戻りつつあり、まさにコロナと共存することを模索している 1 年だったように相談からも感じられました。引き続き「エンゼル 110 番」の相談員がお話を伺わせていただくことで、子育てされている方たちの気持ちの面でのサポートができるように努めます。

以上